

# 三井記念病院

百年のあゆみ

# 創立100周年を迎えて

三井記念病院は平成18年(2006)10月3日に創立100周年を迎え、その記念事業として取り組んでいる新病院建設計画も第1期工事が竣工の運びとなりましたことを地域の皆さまをはじめ関係者の皆さま、そして三井グループを挙げて慶びたいと思います。

明治39年(1906)に三井家による社会福祉事業として100万円の寄付によって設立された三井慈善病院は、診療業務を東京帝国大学医科大学に委託し、各科の課長に東京帝国大学医科大学教授、助教授、講師を迎えるなど、当初から高度な医療レベルを誇っておりました。もともと東京帝国大学医科大学の前身である東京帝国大学医学部は、天然痘に苦しむ多くの小児を救うため82名の蘭学者がお玉ヶ池に開設した種痘所に始まります。

当院はこの精神を受け継ぎ、開院当初から生活困窮者のみに診療を行い、診療費は無料としていました。その後、財団法人泉橋慈善病院、財団法人三井厚生病院、社会福祉法人三井厚生病院、そして現在の社会福祉法人三井記念病院へと改組・改称し、三井グループによる社会貢献事業の柱の一つとして運営されております。これら100年の歴史において一貫した社会福祉の精神に基づき、高度な医療を絶えず提供してまいりました



平成21年 3月

**理事長 田中 順一郎**

ことが当院の大きな特色となっております。

この間、昭和45年(1970)4月には、三井グループ各社の支援により地上13階の新病院が完成し、当時「東洋一の高さを誇る高層建築病院」として話題となりました。昭和55年(1980)4月に第2期工事、昭和58年(1983)4月に第3期工事が完成しましたが、これらの建物も老朽化が進み今回の全面建替えに至っています。

この度オープンいたしました入院棟の建設に際しましても、三井グループ各社から多大なるご支援を賜るとともに、工事期間中は地域の皆さまのご理解を得て順調に工事が進められ、無事完成の運びとなりましたことを心より御礼申し上げます。

今回、100年という一つの節目を記念して小史を発刊することとなりましたが、当院の歴史資料は昭和20年(1945)3月10日の東京大空襲により、そのほとんどが焼失しておりました。しかし、幸いにも三井文庫や三友新聞社の資料を中心として、体系的にまとめることができ、当院が絶えず「社会福祉の精神」を貫き、時代の要請に応える高度な医療を提供してきた歴史を再認識し、今後も当院の運営を三井グループによる社会貢献活動の柱の一つとして、社会の発展に寄与していきたいと考えております。

# 後世に残る社会奉仕

明治39年(1906)に当時の三井11家総代・三井八郎右衛門(高棟<sup>たかみね</sup>)が100万円を寄付して設立認可を申請した財団法人三井慈善病院は、三井グループ各社による支援のもと一貫した社会福祉の精神に基づいた高度な医療を提供し続け、平成18年(2006)10月3日に創立100周年を迎えました。

創立当時は貧困のために医療を受けられない人が多く、これらの人たちに高度な医療を無料で提供することは、日本の近代化を進めるための労働力の確保につながりました。このため三井記念病院の創立は日本の近代化を支えるために非常に有意義なものであったと実感しています。

現在までの道程には関東大震災や東京大空襲など困難な状況も多くありましたが、開院当時は内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚病科の5科、120床だった病床数も現在では30科、482床へと拡張しています。当初から医師の育成や看護師の養成にも努めるほか、入院・外来の患者には相談所を開設し、多くの悩みに応えてきました。こうした中で、開院後に皇后陛下行啓、多くの皇族殿下の台臨を賜りましたことは、入院患者や職員の大きな励みとなったことと思います。



平成21年 3月

評議員会議長 **三井** ひさしげ  
**長生**

また、当院は藤堂和泉守(伊勢国津藩、現三重県津市)上屋敷跡である現在の東京都千代田区神田和泉町に建設されましたが、藤堂家が治めた津は三井家の家祖・三井高利の生誕地である松阪に近い場所にあります。さらに神田和泉町は高利が江戸で呉服店・越後屋を開いた本町一丁目(現日本銀行新館の一角)と至近距離にあるなど、この神田和泉町には、三井グループが社会貢献事業を行うに相応しいご縁を感じています。

この地におきまして平成23年(2011)12月、三井記念病院はさらに高度な医療と快適な療養環境を提供する新たな施設に生まれ変わります。昭和55年(1980)の建替えに続くもので、今回も三井グループ各社から多大なるご支援を賜りましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

今回の記念史により、三井記念病院が行ってきた社会への奉仕が記録として後世に伝えられ、今後ますます社会に貢献できる病院として発展していく一助ともなれば幸いと存じます。地域の方々、三井グループ各社の関係者をはじめ、皆さまには今後とも、なお一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

# 発刊にあたって

三井記念病院は、明治39年(1906)に設立が決まり、最初の病院が明治42年(1909)に完成いたしました。当院が設立されてから1世紀、19世紀から20世紀というように時を経た世紀の重みを感じずにはられません。

この100年史を発刊するに当たり、まず困ったことは、第2次世界大戦のため、明治、大正、及び昭和20年(1945)までの資料がほとんど焼失していた事であります。その中であって、三井文庫に『財団法人 泉橋慈善病院三十年略誌』があることが分かりました。これには創立当時の社会状況、病院の正面写真、病院の見取り図、病室の写真、創立以来30年間の医師の名簿、患者数、会計などが詳細に記録されておりました。また、終戦後の混乱から病院再建に努力された荷見晋氏(元三井不動産)が、『三友新聞』『東京大学医学部百年史』の中で当院の歴史に関して述べておられる箇所も、今回の100年史編集にあたり、大いに参考にさせていただきました。

また、戦後より長く当院に勤務され、副院長でもあった清瀬 闊<sup>ひろし</sup>先生が、終戦後の思い出を寄稿してくださったことは望外の幸でした。

『財団法人 泉橋慈善病院三十年略誌』の中に、中国の革命史に名を残す魯迅が敬愛してやまなかった「藤野先生」(藤野巖九郎氏)が、一時期、当院耳鼻科に勤務されたこと、



平成21年 3月

## 院長 萬年 徹

また作家の吉村昭氏のノンフィクション『破獄』を読むと、主人公の脱獄囚が刑期を終え就業したあと当院で生を終えたことなど、調べてみると興味深い事実がありました。このような歴史はさて置き、当院が東京の地にあって、着実な医療を行い、今日を迎えるに至ったことを考えますと、この病院を支えて下さった諸先輩方のご尽力に深く感謝しなければならないと思うものであります。

この1世紀の間、病院を支えてくださいました三井家、さらには財閥解体後の経済的困難さを救うため、陰に陽に当院をお助け下さった三井グループ各社の御力添えがあったればこそ、当院が現在、世の評価を受けるようになったのであります。

さらに、この病院で骨身を惜しまず日夜、医療、医事に懸命に働いてきた職員の努力が、この100年の歴史を生み出すに至ったと思わざるを得ません。

100年記念を迎え、さらなる新しい医療の場として新病院が発展し、次の100年に向かって進むことを切に願うものであります。

# 医療理念

三井記念病院は全人的視点に立ち

最新・最良の医療を提供し社会に貢献します



三井記念病院入院棟(平成20年9月竣工)



# 目 次

|             |              |
|-------------|--------------|
| 創立100周年を迎えて | 理 事 長 田中順一郎  |
| 後世に残る社会奉仕   | 評議員会議長 三井 長生 |
| 発刊にあたって     | 院 長 萬年 徹     |

## 本 編

### 序章 創立前史

#### 1. 種痘所の開設

|                |    |
|----------------|----|
| 福祉の精神と高度医療     | 14 |
| 「お玉ヶ池」と「神田和泉町」 | 14 |

#### 2. 東京帝国大学医科大学附属第二医院跡

|            |    |
|------------|----|
| 種痘所から第二医院へ | 16 |
| 第二医院の全焼    | 18 |

### 第1章 三井慈善病院の創立

#### 1. 社会福祉へのアプローチ

|                   |    |
|-------------------|----|
| 慈善病院設立の経緯         | 19 |
| 安定した病院運営を目指す役員顔ぶれ | 20 |
| 三井慈善病院開院式         | 22 |

|                  |    |
|------------------|----|
| 設立時の財団法人三井慈善病院概要 | 23 |
| 高度な医療レベルが一世を風靡   | 25 |
| 社会福祉の一大事業に脚光     | 26 |
| 三井高棟一行の欧米視察      | 28 |
| 社団法人同愛社と協定       | 28 |

## 2. 医療レベルの高度化と附属機関の充実

|             |    |
|-------------|----|
| 医師補習教育の実施   | 28 |
| 附属産婆看護婦養成所  | 29 |
| 泉橋慈善病院賛助婦人会 | 30 |
| 病人相談所の開設    | 32 |
| 三井家の寄付      | 32 |

## 第2章 大正時代～昭和時代

### 1. 苦難の大正時代

|                 |    |
|-----------------|----|
| 三井慈善病院から泉橋慈善病院へ | 34 |
| 『躋民寿域絵巻』        | 34 |
| 関東大震災を乗り越える     | 37 |
| 風水害で特別診療        | 39 |

### 2. 皇族の患者慰問

|                 |    |
|-----------------|----|
| 皇后陛下が初の行啓       | 39 |
| 関東大震災に際しての行啓、台臨 | 42 |
| 国務大臣及び宮内官の視察    | 42 |

### 3. 激動の昭和期

|                 |    |
|-----------------|----|
| 創立30周年記念式挙行     | 42 |
| 泉橋慈善病院から三井厚生病院へ | 43 |
| 東京大空襲           | 43 |

## 第3章 戦後復興への道

### 1. 焼け跡からの出発

|               |    |
|---------------|----|
| 荷見理事に託された病院再建 | 45 |
| 建物と資金の調達に奔走   | 46 |

### 2. 財団法人から社会福祉法人へ

|            |    |
|------------|----|
| 戦後初の新病棟が竣工 | 47 |
|------------|----|

## 第4章 再び高度医療を

### 1. 最新の医療病棟建設へ

|                  |    |
|------------------|----|
| 第1期工事始まる         | 50 |
| 第1期工事出資26社       | 52 |
| B C棟竣工、東洋一の高層病院に | 52 |
| 三井記念病院高等看護学院を開院  | 54 |
| 三井建設で血液検査のデータ処理  | 56 |

### 2. 第2期工事に向けて

|                |    |
|----------------|----|
| 三井グループ50社からの寄付 | 56 |
| 第2期工事出資50社     | 57 |

|            |    |
|------------|----|
| D棟に看護学院を併設 | 58 |
| 「三井の天使」を除幕 | 59 |

## 終章 21世紀の最先端医療へ

### 1. 建替え工事計画を推進

|                     |    |
|---------------------|----|
| 総合健診センター、三井陽光苑をオープン | 60 |
| 建替え工事計画を発表          | 61 |
| 三井記念病院建替え工事出資27社    | 61 |

### 2. 医療活動を続けながらの建替え

|                |    |
|----------------|----|
| 総事業費200億円の大計画  | 62 |
| 地上19階の入院棟完成    | 63 |
| 次の100年に向けた高度医療 | 65 |

### 寄稿

|   |    |
|---|----|
| 戦後の三井厚生病院(三井記念病院元副院長 清瀬 <sup>ひろし</sup> 闊) | 67 |
|---|----|

## 資料編

|             |    |
|-------------|----|
| 歴代理事長・評議員会長 | 72 |
| 歴代院長        | 73 |
| 役職員         | 75 |
| 病院概要        | 78 |
| B C棟フロア図    | 85 |
| 入院棟フロア図     | 86 |
| 年表          | 89 |
| 主要参考文献      | 93 |